

令和5年度
北秋田市行政評価委員会
評価結果報告書

令和6年3月
北秋田市行政評価委員会

目 次

1 行政評価委員会の概要	3
（1）設置目的	3
（2）委員会の役割	3
（3）委員会の構成	4
（4）評価の進め方	4
（5）評価対象事業	5
（6）委員会の開催経過	6
2 評価結果の総括	7
（1）目的妥当性	7
（2）有効性評価	7
（3）効率性評価	7
（4）公平性評価	7
3 事業別の評価結果	8
（1）自主防災組織防災活動支援事業補助事業	8
（2）幸せファミリーサポート事業	9
（3）交通安全啓発団体補助事業	10
（4）花火大会補助金	11
（5）子育てサポートハウス運営事業	12
（6）移住体験事業	13
（7）家族介護慰労事業	14
（8）内陸線運営補助金	15
4 市民による評価の課題及び改善に向けた提言	16
資料1 事務事業評価ワークシート	19
資料2 令和4年度北秋田市行政評価委員会からの意見や提言に対する回答	35

1 行政評価委員会の概要

(1) 設置目的

北秋田市行政評価委員会（以下「委員会」という。）は、市が行った内部評価の客観性と透明性を高めるとともに、市民目線による外部の評価結果を今後の行政運営に活かすことを目的として設置しております。

(2) 委員会の役割

委員会では市が行った事業について、各委員それぞれの立場や視点で議論しながら評価を行い、問題等がある場合は改善案についても提言します。

評価にあたっては、次の4つの視点から評価しますが、いわゆる「事業仕分け」のように、事業の廃止や予算縮減など財源の捻出を主な目的とした手法ではなく「受益者」「納税者（負担者）」「利害関係者」「住民」などまちづくりの担い手がいることに留意しながら、行政、市民、各団体などそれぞれのどのような役割を担うべきかなど、建設的な意見や提言を取りまとめることを目標に取り組んでおります。

評価の視点	評価のポイント
目的妥当性	<ul style="list-style-type: none">・ 目的は、総合計画の政策体系に結びついているか？・ 成果（対象と意図）と上位成果（結果）の絞り込み、拡充は必要か？・ 行政や市が関与すべき目的か？公共性はあるのか？
有効性	<ul style="list-style-type: none">・ 成果の向上余地があるか？・ 同じ目的を持つ他の事務事業はないか？・ 統廃合や事業移管をすれば成果が向上するのではないかと？
効率性	<ul style="list-style-type: none">・ 成果を低下させずにコストを削減できるか？・ どこにコスト圧迫、増大する要因があるか？・ 業務改善すれば人員や時間を削減できるのではないかと？
公平性	<ul style="list-style-type: none">・ 一部の受益者に偏っていないか？・ 一部の受益者に機会が限定されていないか？



(3) 委員会の構成

委員会は、学識経験者、地域自治組織から推薦された方、公募市民からなる 10 名以内の委員で構成しています。

委員の任期は、令和 4 年 8 月 26 日から令和 6 年 3 月 31 日までとなっています。

なお、小林さや委員については、今年度からの委嘱であったため、任期は令和 5 年 5 月 26 日から令和 6 年 3 月 31 日までとなっています。

	役職	氏名	部会
1	委員長	伊藤 武	第 1 部会
2	委員	笠井 みずえ	第 1 部会
3	委員	春日 俊克	第 2 部会
4	副委員長	金森 勝三	第 2 部会
5	委員	小林 さや	第 2 部会
6	委員	佐京 奈緒美	第 2 部会
7	委員	佐々木 孝夫	第 1 部会
8	委員	田島 あや	第 1 部会
9	委員	長谷川 拓郎	第 2 部会
10	委員	堀田 真子	第 1 部会

(五十音順)

(4) 評価の進め方

各事業の評価の進め方は、委員会を 2 つの部会に分け、部会ごとに担当課からヒアリングを行ったのちに部会としての評価や意見をまとめます。部会終了後に全体会で結果発表と意見交換を行って評価結果が取りまとめられます。

【 部会 】

① 担当課ヒアリング及び質疑応答 (60 分)

- ・担当部長、課長等により、事務事業評価シートをもとに事業の概要や実績、内部評価結果などを説明する。
- ・不明な点、疑問点を委員から質問し、担当課が回答する。

② 評価結果の取りまとめ (30 分)

- ・目的妥当性や有効性など 4 つの評価視点からそれぞれの意見を出し合う。
- ・評価結果の他、改善案などについても、意見を取りまとめる。



【全体会】

③ 評価結果発表・意見交換 (30分)

- ・部会毎に評価結果を発表する。
- ・疑問点の有無、その他の意見や改善案などないか確認する。

④ 評価結果取りまとめ

(5) 評価対象事業



評価対象とする事務事業については、平成 24 年度から令和 4 年度までに担当課等による内部評価を終えた 119 事務事業のうち、委員の関心が高かった以下の 8 つの事務事業を今年度の評価対象として選定しました。(以前に外部評価を実施した事務事業も対象)

事務事業名	分野 (施策名)	所管課名
自主防災組織防災活動支援事業補助事業	地域防災体制の充実	総務課
幸せファミリーサポート事業	安心して結婚・出産・子育てできる環境の充実	医療健康課
交通安全啓発団体補助事業	交通安全の推進・防犯体制の強化	生活課
花火大会補助金	観光・レクリエーションの振興	商工観光課
子育てサポートハウス運営事業	安心して結婚・出産・子育てできる環境の充実	こども課
移住体験事業	移住定住の促進	総合政策課
家族介護慰労事業	高齢者福祉の充実	高齢福祉課
内陸線運営補助金	公共交通の維持・確保	内陸線再生支援室

(6) 委員会の開催経過

	日時	委員会の概要
第1回	5月26日(金)	<事務・事業ヒアリング> 【第1部会】自主防災組織防災活動支援事業補助事業 【第2部会】幸せファミリーサポート事業
第2回	7月21日(金)	<事務・事業ヒアリング> 【第1部会】交通安全啓発団体補助事業 【第2部会】花火大会補助金
第3回	8月25日(金)	<事務・事業ヒアリング> 【第1部会】子育てサポートハウス運営事業 【第2部会】移住体験事業
第4回	10月20日(金)	<事務・事業ヒアリング> 【第1部会】家族介護慰労事業 【第2部会】内陸線運営補助金
第5回	11月17日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・評価結果取りまとめ ・評価結果報告書作成
報告	令和6年 2月16日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・市長へ評価結果報告書の提出



2 評価結果の総括

【評価項目別の評価結果一覧】 令和5年度評価対象 全8事業

評価の視点	担当課(内部評価)		行政評価委員会(外部評価)	
	適切	見直し余地あり	適切	見直し余地あり
目的妥当性	7事業	1事業	8事業	0事業
有効性	7事業	1事業	7事業	1事業
効率性	8事業	0事業	8事業	0事業
公平性	8事業	0事業	6事業	2事業 ※1

※1 花火大会補助金については「どちらともいえない」との評価

(1) 目的妥当性 (行政が関与すべきか? 公共性はあるか?)

目的妥当性に関しては、すべての事業で「適切」という評価になった

(2) 有効性評価 (成果向上の余地は? 他の事業との連携は?)

「自主防災組織防災活動支援事業補助事業」にのみ、高齢化・人材不足のため組織作りが難しい地域もあるため、地域の実情に合わせた組織作りによる組織率の向上が必要という意見が出たことにより、「見直し余地がある」という評価に至った。

(3) 効率性評価 (コストの削減? 業務改善による人員や時間の削減は?)

効率性評価に関しては、すべての事業で「適切」という評価になった。

(4) 公平性評価 (一部の受益者を対象にしていないか? 偏っていないか?)

「花火大会補助金」は、地域ごとの実行委員会組織に人員・体制の差があり、地域事情を加味して「どちらともいえない」との評価となった。また「子育てサポートハウス運営事業」については、鷹巣地区のみ施設(わんぱく)があり、やや不公平感がある。施設の設置が難しいとしても、保育所など既存施設を利用し、市内全域に類似の子育て支援拠点を設置すべきという意見から「見直し余地がある」という評価に至った。

3 事業別の評価結果

(1) 自主防災組織防災活動支援事業補助事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	見直し余地あり	見直し余地あり
効率性	適切	適切
公平性	適切	適切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 事業のやり方改善による成果向上

② 全体所感・市への提案

- 今後は自治会単位のみではなく、広域的に組織する必要がある。
- 機材購入補助金の交付回数条件の緩和が必要である。
- 高齢化、人材不足のため組織作りが難しい地域もあるため、地域の実情に合わせた組織作りによる組織率の向上が必要である。
- 行政からの積極的な指導が必要である。

(2) 幸せファミリーサポート事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	見直し余地あり	適切
有効性	適切	適切
効率性	適切	適切
公平性	適切	適切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■ 費用負担の適正化

② 全体所感・市への提案

- 年齢制限を設けていないことを評価したい。
- 少子化対策として大変有効である。
- 対象者が増加傾向にあるため事業費削減は難しい。
- 今後多様な形（同性婚など）にも対応していく議論も必要ではないか。
- 性別や結婚などの様々な価値観が変化してきているため、事業名称そのものが時代に合わなくなっているのではないかという印象を受けた。
- 子育てに関する施策は国・県・市が協力して進めていただきたい。

(3) 交通安全啓発団体補助事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	適切	適切
効率性	適切	適切
公平性	適切	適切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 事業のやり方改善による成果向上

② 全体所感・市への提案

- 交通安全協会の内容が理解できた。
- 市民に交通安全意識の啓発普及を図り、交通安全協会会員を増やす施策の検討が必要である。
- 交通安全教室等への参加増を期待する。
- 事業について見直しの余地がなく、現状の維持が適切である。

(4) 花火大会補助金

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	適切	適切
効率性	適切	適切
公平性	適切	どちらともいえない

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■ 費用負担の適正化

② 全体所感・市への提案

- 地域のつながりのためには大切である。
- 意識調査は地域の特性が出ているようだ。
- 各地域の実行委員会の活動がある間は事業が継続されるだろうが、実行委員会が活動しなくなった後は不明である。
- 各実行委員会の収支決算報告書があれば、より事業を詳細に評価できる。
- 意識調査を上位目的に繋げるため、観光・レクリエーションの振興に努めてもらいたい。
- 地域行事は後世に継承すべき大切なものなので、今後も市からバックアップをお願いしたい。

(5) 子育てサポートハウス運営事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	適切	適切
効率性	適切	適切
公平性	適切	見直しの余地あり

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

- 事業のやり方改善による成果向上

② 全体所感・市への提案

- 核家族化や共働きが増加していることを認識した。
- 市外からの利用者からも、こういった施設があることがありがたいとの意見がある。
- 鷹巣地区のみ施設（わんぱーく）があり不公平感があるが、阿仁地区などは利用者が少ないといった側面がある。
- 保育所など既存施設を利用し、市内全域にて類似の子育て支援をすべきである。
- 子育て世代としては大変ありがたい施設なので、是非継続してもらいたい。

(6) 移住体験事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	適切	適切
効率性	適切	適切
公平性	適切	適切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■事業のやり方改善による成果向上

② 全体所感・市への提案

- 移住体験メニューが充実しており、対象者の要望に応えることが出来ている。
- 人口減少対策であり、行政が積極的に関わる必要がある。
- 移住希望体験者に寄り添ったオーダーメイド型の移住体験ツアーや、業務委託先「スムスム」の活動によるイベントの実施により、移住者の増加が期待できる。
- 市商工労働係以外にも必要に応じて、その他の担当課や係とも連携を図りながら進めてほしい。
- 住民の協力が不可欠である。
- 本市に移住を希望している移住体験者を分け隔てなく支援している。
- 行政が地域住民の協力を得られるように働きかけることが望まれる。
- 観光部局との連携も視野において進めてほしい。
- 移住者の中で、Uターンが多い印象を受けた。

(7) 家族介護慰労事業

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	適切	適切
効率性	適切	適切
公平性	適切	適切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■ 現状維持

② 全体所感・市への提案

- ケアマネージャーを通してしているので、対象者は漏れなく支給を受けている。
- 施設の改善なども今後指導すべきである。

(8) 内陸線運営補助金

評価の視点	市（担当課）の評価	行政評価委員会の評価
目的妥当性	適切	適切
有効性	適切	適切
効率性	適切	適切
公平性	適切	適切

【行政評価委員会からの提言】

① 今後の事業の方向性

■事業のやり方改善による成果向上

② 全体所感・市への提案

- 目標である年間赤字2億円を達成している。
- 県・仙北市・関係団体と連携して支援している。
- コロナ以前の状況に戻るには時間がかかるため、補助金を削減するのは困難。
- 乗る・乗らないにかかわらず、鉄道は残してもらいたい。
- 今後も乗車率の低下が見込まれるため、沿線に勤務する住民や、公務員の乗車を促すような方策を考えてほしい。
- 愛護会のような市民団体への補助の見直しを求める。
- 今後さらに定期乗車率の低下が見込まれるため、インバウンドの乗客や関連販売の促進を盛り上げていてもらいたい。
- 今後赤字が2億円を超えることが予想されるため、その際の対策を考えていく必要がある。
- 阿仁合～鷹巣間の乗車率を上げてもらいたい。

4 市民による評価の課題及び改善に向けた提言

(1) 事務事業評価資料（マネジメントシート）の記載内容について

- ・改革改善案については、行政側の目標をもっと詳しく語ってほしい。それに対しての提案も出るのではないか。
- ・分かりやすく書いてあると思うが、委員としてどういう視点で読んだらよいのか分からなかった。
- ・シートの内容については問題ない。
- ・事業によっては事業費の内容に関する質問が度々挙がっていたので、補足する資料があってもいいと感じた。
- ・分かりやすい言葉で記載されていたが、マネジメントシートが分かりづらい。評価しにくい。
- ・第3セクターの財政負担をしているが、「4者合意」に基づいた2億円の実際の使途が大枠でも示されないと、妥当性が理解できない。（秋田内陸線運営費補助金）
- ・大変分かりやすかった。
- ・項目立てに注意書きや説明が書いてあるので、内容を検討するときに理解しやすい。

(2) 評価ヒアリング時における職員の対応について

- ・説明は明快ではあるが、少し表に出されない問題もありそうで、本音と建て前を探るのが大変であった。
- ・説明、対応は良かったが、専門的な内容になると少々足りないと感じた。
- ・明快、簡潔であった。ただ金の使い道（補助金など）の明細が分からないことがあったので、評価対象がたくさんある中で、また委員の希望もたくさんあった中で、それを評価する意味はなんなのかと感じた。
- ・防災、交通安全、子育て、介護と、人情的に適切としか言えないような案件が多かったと感じた。
- ・質問が多岐にわたっても丁寧に対応いただいた。
- ・委託事業、補助金事業についても詳細に説明していただいたが、実際に事業を運営されている方のお話しも聞くことができればよかった。
- ・よく事前勉強されていると思った。
- ・今年から北秋田市総合計画が添付されていて参考になった。
- ・委員から質問が出た際、用語の説明から具体的な数字など詳細を丁寧に説明してくださり、分かりやすかった。市の政策について理解し、良い提言を行うことができたと感じる。

(3) 行政評価委員会における評価の進め方について

- ・時間不足のためか、委員同士の意見交換が不足であった。構成メンバーにもよるが、他の分野の議案ではどうなるか。
- ・時間配分は問題ないと思う。時間内で意見をまとめるには対象事業から逸れないよう意識して発言する必要があると思う。
- ・昨年度同様、進め方は変わらなかったなので、時間が足りないと感じている。
- ・委員会への出席にばらつきがあり、よく議論されないことが度々あったため、会議での役割も偏りがちであった。
- ・事業によっては話し合いの時間が足りないと感じる部分があると感じる。

(4) その他、行政評価委員会運営に関して改善すべき点や気付いた点について

- ・委員の欠席が多かった。当会の委員会が主なのか、選考時には検討すべきである。少数の出席だと意見交換が不足となり、答えを出すのに大変であった。
- ・委員会に欠席の委員が多く、幅広い意見を求めている当会の趣旨が薄らぐ印象となる。
- ・若い人がいないと感じた。（参加できないなど）それ故に年配の人の意見に偏りがでるし、今後を考えた時に委員自体がいなくなると感じた。若い人が評価委員になりたいと思わせる何かがあればな、と思います。
- ・世代、性別、立場によって様々な意見があって勉強になった。
- ・職員の方々とお話しできる貴重な機会なので、単なる行政批判ではなく、適切な評価と前向きな提言ができるよう意識することが必要だと感じた。
- ・評価できたから終了ではなく、今後今回の評価結果を活用していただき、より良い街づくりに反映させてほしい。
- ・年齢（世代）バランスや男女比など、委員の構成については良くなっていると感じた。
- ・委員会に出席してからでないとその日の出席状況が分からないので、できれば事前にその班の出席状況を知らせてほしい。
- ・今年は臨機応変に委員の入れ替えをしてくれましたが、事前勉強等も必要になるので、早めに連絡がほしい。
- ・様々な経歴をもった方が委員を務められていると感じた。皆さま熱心であり、建設的な意見が生まれていると感じた。

(5) その他、今回の評価対象事業にかかわらず、今後のまちづくりにおける改善策や提言などご自由に記入ください。

- ・ 今後自治体などでも「まちづくり」「市への提言」などを実施する予定でいる。
- ・ よくやっている。
- ・ 少子・高齢化が加速度的に進行する当市にあって、自主財源が少ない中で市民各界各層の要望も多いものと想像される。当局としては、すべての要望に応えてやりたい心情は十分理解できるが、「総花的」な予算配分にならないか気になっている。
- ・ 一保護者のお願いですが、学校の設備の老朽化が進んでいると感じる。特に運動に関わる設備、屋外の設備等です。学校からも要望は上がっているかと思いますが、事故等ないように点検・改修が可能であればありがたい。
- ・ 苦情処理の対応について、不適切な対応をされている方がいると耳にすることが多くなってきている。職員の苦情処理能力の向上を期待したい。市民に尊敬される存在であってほしい。
- ・ 北秋田市が「魅力ある住みたいまち」になるように、引き続き人口増加を目指して街づくりに取り組んでほしい。
- ・ 定期乗車人数を増やすには、行政機関や民間会社の勤務者が自分たちの足として利用しやすいようなダイヤと駅からの輸送手段が整う必要がある。(内陸線運営費補助金)
- ・ 乗客増は外国からの観光客を仙北側から北秋田市に足を伸ばしてもらうことにあると思う。「松葉駅」からは台湾からのインバウンドが「角館」まで満車になっている。(内陸線運営費補助金)

事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名: 第1部会

対象事業名: 自主防災組織防災活動支援事業補助事業

対象
(誰が、何が)

- ・自治会
- ・町内会
- (鷹巣97、合川38、森吉65 阿仁30)

意図
(どうなることで)

- ・災害の防止及び被害軽減に向けた組織の設立

上位目的
(どうなる)

結果...

- ・地域住民自らの活動等による、地域防災力の向上

I. 目的妥当性評価

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

- 見直し余地がある
(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)
- 適切である

(気になった点・出された意見等)

今後は自治会単位のみでなく、広域的に組織する必要もある。

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

- 見直し余地がある
(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)
- 妥当である
(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

特になし

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名: 第1部会

対象事業名: 自主防災組織防災活動支援事業補助事業

II. 有効性評価

成果指標と実績

自主防災組織数(累計)

- R 4実績: 48
- R 3実績: 45
- R 2実績: 43

活動指標と実績

ア 自主防災組織活動事業(団体数)

- R 4実績: 4
- R 3実績: 4
- R 2実績: 7

イ 自主防災用資機材整備事業(団体数)

- R 4実績: 1
- R 3実績: 1
- R 2実績: 2

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

- 見直し余地がある(成果実績は十分でない)
- 妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

補助金交付回数条件の緩和が必要。

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

- 他に手段がある
- 統廃合ができる
 - 連携ができる
 - 既に統廃合・連携している
 - 統廃合・連携ができない
- 他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名: 第1部会

対象事業名: 自主防災組織防災活動支援事業補助事業

活動
指標と
実績

- ア 自主防災組織活動事業
団体数
R 4 実績: 4
R 3 実績: 4
R 2 実績: 7
- イ 主防災用資機材整備事業 (団体数)
R 4 実績: 1
R 3 実績: 1
R 2 実績: 2

コスト
(かかる費用)

- 事業費
R 4 実績: 298千円
R 3 実績: 336千円
R 2 実績: 790千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤ 事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

- 削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

⑥ 人件費の削減余地

やり方の工夫 (業務プロセスの改善など) や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

- 削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

Ⅳ. 公平性評価

⑦ 公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担は公平・公正・適切か?

- 見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

特になし

事務事業評価 ワークシート4

班名: 第1部会

対象事業名: 自主防災組織防災活動支援事業補助事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1~3での評価結果を踏まえて)

- | | | |
|---------|--|---|
| I 目的妥当性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| II 有効性 | <input type="checkbox"/> 適切 | <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| III 効率性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| IV 公平性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

- 目的再設定 事業のやり方改善による成果向上
- 廃止・休止 費用負担の適正化
- 行政関与の見直し 受益機会の適正化
- 事業のやり方改善による事業費削減
- 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
- 事業統廃合・連携

(関連事業:)

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

高齢化、人材不足のため組織作りが難しい地域もあるが、地域の実情に合わせた組織作りによる組織率の向上が必要。

(4) 事務事業評価に参加した感想・今後に向けての意見

特になし



事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名: 第2部会

対象事務事業名: 幸せファミリーサポート事業



対象
(誰が、何が)

妊娠を望み不妊等治療を希望する夫婦

意図
(どうなることで)

妊娠を望む夫婦(申請者)が、健やかな妊娠・出産を迎えることができること

上位目的
(どうなる)

・少子化対策(出生数の増加)
・安心して妊娠・出産・子育てできる環境づくり

結果...

I. 目的妥当性評価

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

見直し余地がある

(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

適切である

(気になった点・出された意見等)

年齢制限を設けてほしいと評価したい。

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

見直し余地がある

(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的であるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

妥当である

(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

少子化対策として大変有効である。



事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名: 第2部会

対象事務事業名: 幸せファミリーサポート事業

II. 有効性評価

成果指標と実績

ア 母子健康手帳交付件数
R4実績: 80件
R3年度: 81件
R2実績: 91件

イ 母子健康手帳交付者のうち幸せファミリーサポート申請数
R4実績: 5件
R3年度: 3件
R2実績: 5件

活動指標と実績

ア 特定不妊申請数(特定不妊助成額)
R4実績: 6件(589千円)
R3年度: 5件(976千円)
R2実績: 5件(341千円)

イ 一般不妊申請数(一般不妊助成額)
R4実績: 21件(1,175千円)
R3年度: 18件(1,478千円)
R2実績: 21件(1,132千円)

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

見直し余地がある(成果実績は十分でない)

妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

成果が期待できる。

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

他に手段がある



統廃合ができる

連携ができる

既に統廃合・連携している

統廃合・連携ができない

他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

国、県、市と連携しつづけてほしい。



活動
指標と
実績

ア 特定不妊申請数 (特定不妊助成額)
R 4 実績: 6 件 (589千円)
R 3 年度: 5 件 (976千円)
R 2 実績: 5 件 (341千円)
イ 一般不妊申請数 (一般不妊助成額)
R 4 実績: 21件 (1,175千円)
R 3 年度: 18件 (1,478千円)
R 2 実績: 21件 (1,132千円)

コスト
(かかる費用)

事業費
R 4 実績: 1,764千円
R 3 実績: 2,454千円
R 2 実績: 1,479千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

増加傾向にあるため削減はあずかしい。

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫 (業務プロセスの改善など) や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

なし

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担は公平・公正・適切か?

見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

今後、多様な形(同性婚など)にも対応していき議論も必要ではないか。



【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1~3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
II 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
III 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
IV 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり



(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

- 目的再設定
- 事業のやり方改善による成果向上
- 廃止・休止
- 費用負担の適正化
- 行政関与の見直し
- 受益機会の適正化
- 事業のやり方改善による事業費削減
- 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
- 事業統廃合・連携

(関連事業:)

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

将来的にLGBT等の子育てサポートに対応していく必要性があるのでは?
多様な視点を持って考えていく必要がある。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

子育ては国、県、市で協力して今後も進めたい。



事務事業評価 ワークシート1 【目的妥当性評価】

班名: 第1部会

対象事業名: 交通安全啓発団体補助事業

I. 目的妥当性評価

対象
(誰が、何が)

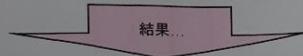
- ア) 市民等 (特に家族、子供、高齢者)
- イ) 交通安全協会、母の会

意図
(どうなることで)

- ア) 交通安全意識の高揚が図られる。
- イ) 市に代わって啓発活動を推進する

上位目的
(どうなる)

交通事故のない安全な地域



①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的 (対象と意図) について、上位目的 (=総合計画での方向性) や市民感覚と照し合わせると適切か?

- 見直し余地がある
(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)
- 適切である

(気になった点・出された意見等) 飲酒運転が依然あつたことかわかりました。
交通安全協会の内容を理解しました。

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的 (対象と意図) は行政 (市) が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

- 見直し余地がある
(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)
- 妥当である
(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)
なし

事務事業評価 ワークシート2 【有効性評価】

班名: 第1部会

対象事業名: 交通安全啓発団体補助事業

II. 有効性評価

成果指標と実績

- 交通安全協会の活動への延べ参加者数
R 2実績: 50人
R 3実績: 28人
R 4実績: 46人
- 交通安全母の会の活動への延べ参加者数
R 2実績: 44人
R 3実績: 52人
R 4実績: 113人

活動指標と実績

- ア 決起集会 (春・秋) 参加人数
R 2実績: 未開催
R 3実績: 未開催
R 4実績: 未開催
※いずれも新型コロナウイルスのため
- イ 交通安全教室参加人数
R 2実績: 20人
R 3実績: 25人
R 4実績: 11人

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

- 見直し余地がある (成果実績は十分でない)
- 妥当である (成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)
市民に交通安全意識の啓発普及をほめるべき。

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他 (民間・国県を含む) に方法があるか?

- 他に手段がある
 - 統廃合ができる
 - 連携ができる
 - 既に統廃合・連携している
 - 統廃合・連携ができない
- 他に手段がない

(気になった点・出された意見等)
参加人数 R5 に期待あり。

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名: 第1部会

対象事業名: 交通安全啓発団体補助事業

活動
指標と
実績

ア 決起集会 (春・秋)
参加人数
R 2 実績: 未開催
R 3 実績: 未開催
R 4 実績: 未開催
※いずれも新型コロナウイルスのため

イ 交通安全教室参加人数
R 2 実績: 20人
R 3 実績: 25人
R 4 実績: 11人

コスト
(かかる費用)

事業費
R 2 実績: 1,300千円
R 3 実績: 1,300千円
R 4 実績: 1,129千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

なし

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫 (業務プロセスの改善など) や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

なし

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担は公平・公正・適切か?

見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

なし

事務事業評価 ワークシート4

班名: 第1部会

対象事業名: 交通安全啓発団体補助事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1~3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
II 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
III 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
IV 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり



(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

目的再設定 事業のやり方改善による成果向上
 廃止・休止 費用負担の適正化
 行政関与の見直し 受益機会の適正化
 事業のやり方改善による事業費削減
 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
 事業統廃合・連携
 (関連事業:)

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

事業について見直しの余地がなく、現状の維持が適切であると思っております。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

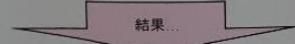


I. 目的妥当性評価

対象
(誰が、何が)
北秋田市民を中心に、帰省客
・市外客も対象

意図
(どうなることで)
市民が行事に参加し、満足度
を向上

**上位
目的**
(どうなる)
北秋田市に住み続けたい意
向度向上



①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

見直し余地がある

(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

適切である

(気になった点・出された意見等)

地域のつながりのためには大切である

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

見直し余地がある

(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的であるが、民間や受益者がより困って行政関与を軽減すべきである)

妥当である

(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)



II. 有効性評価

**成果
指標と
実績**

市民意識調査
(イベント参加意向)
米代川花火大会
R2実績: 31.5%
R3実績: 30.5%
R4実績: 30.8%
阿仁の花火大会
R2実績: 18.5%
R3実績: 19.2%
R4実績: 13.4%

ア 補助金交付団体数
R2実績: 0
R3実績: 0
R4実績: 1

イ 補助金交付額
R2実績: 0円
R3実績: 0円
R4実績: 760千円

ア票35%合計32
票28.19%
(阿仁51%)

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

見直し余地がある(成果実績は十分でない)

妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

意識調査は地域の特性を反映している。

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

他に手段がある

統廃合ができる

連携ができる

既に統廃合・連携している

統廃合・連携ができない

他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

各地域の実行委員会との連携がある間は継続されるでしょうが、その先はわかりません。



事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名：第2部会

対象事務事業名：花火大会補助金

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）

収支決算報告書があればよく判断できる

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

削減余地がある 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）

なし

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

見直し余地がある 公平・公正である わかりにくい

（気になった点・出された意見等）

観光物産協会が直接関与しているから、差が出る
実行委員会のメンバー

活動
指標と
実績

ア 補助金交付団体数
R 2実績：0
R 3実績：0
R 4実績：1

イ 補助金交付額
R 2実績：0円
R 3実績：0円
R 4実績：760千円

コスト
（かかる費用）

事業費
R 2実績：0円
R 3実績：0円
R 4実績：760千円

事務事業評価 ワークシート4

班名：第2部会

対象事務事業名：花火大会補助

【評価結果の総括と今後の方向性（市民からの提案）】

(1) 評価結果の総括

（ワークシート1～3での評価結果を踏まえて）

I 目的妥当性 適切 見直し余地あり

II 有効性 適切 見直し余地あり

III 効率性 適切 見直し余地あり

IV 公平性 適切 見直し余地あり

どちらとも言いにくい

(2) 今後の事業の方向性（複数選択可）

目的再設定 事業のやり方改善による成果向上

廃止・休止 費用負担の適正化

行政関与の見直し 受益機会の適正化

事業のやり方改善による事業費削減

事業のやり方改善による延べ業務時間削減

事業統廃合・連携

（関連事業：）

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

全体事業の収支決算があればより理解が深まると思います
上位目的につながる観光・レクリエーションの進行に努めてほしい
意識調査を

(4) 事務事業評価に参加した感想・今後に向けての意見

地域行事は後世に継承すべき大切なものなので、市がバックアップしているといい



I. 目的妥当性評価

対象
(誰が、何が)

市内在住の子育て親子
(児童・保護者・家族)

意図
(どうなることで)

施設の利用により、安心して
児童を預け、急用や所用に対
応できる。

上位
目的
(どうなる)

結果...
親等の心身の負担の軽減と
子育てに関する不安の解消



①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

見直し余地がある

(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

適切である

(気になった点・出された意見等)

特になし

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

見直し余地がある

(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

妥当である

(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

核家族化や共働きの増加している



II. 有効性評価

成果
指標と
実績

一時預かり保育
R2実績: 422人
R3実績: 294人
R4実績: 257人

病後児保育
R2実績: 8人
R3実績: 1人
R4実績: 0人

活動
指標と
実績

つどいの広場
(親子または家族)
【R3から組→人に変更】
R2実績: 1,320組
R3実績: 3,640人
R4実績: 4,200人

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか?現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

見直し余地がある(成果実績は十分でない)

妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

市外からの利用者からもこういった施設があることで子育てしやすいという声がある。

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

他に手段がある

統廃合ができる 連携ができる
 既に統廃合・連携している 統廃合・連携ができない

他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名: 第1部会

対象事業名: 子育てサポートハウス運営事業

活動
指標と
実績

つどいの広場
(親子または家族)
【R3から組→人に変更】
R 2実績: 1, 320組
R 3実績: 3, 640人
R 4実績: 4, 200人

コスト
(かかる費用)

事業費
R 2実績: 15, 462千円
R 3実績: 17, 648千円
R 4実績: 15, 519千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

R4. 施設新設に1億1千万

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫 (業務プロセスの改善など) や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか?

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

特になし

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか? 受益者負担は公平・公正・適切か?

見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

鷹巣地区に施設があるため不公平感はあるが阿仁地区には利用者が少ないという面もある

事務事業評価 ワークシート4

班名: 第1部会

対象事業名: 子育てサポートハウス運営事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1~3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
II 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
III 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
IV 公平性	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

目的再設定 事業のやり方改善による成果向上
 廃止・休止 費用負担の適正化
 行政関与の見直し 受益機会の適正化
 事業のやり方改善による事業費削減
 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
 事業統廃合・連携
 (関連事業:)

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

市内全地域に類似の子育て支援拠点を設置すべき

事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

子育て世代としては大変ありがたい施設なのでぜひ継続してほしい。

I. 目的妥当性評価

対象

(誰が、何が)

本市への移住に興味・関心のある県外在住者

意図

(どうなることで)

移住体験者による関係人口の増加

上位目的

(どうなる)

結果
本市への移住者の増加

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

見直し余地がある

(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)

適切である

(気になった点・出された意見等)

移住体験メニューが充実しており、対象者の要望に応えることができている。

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

見直し余地がある

(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)

妥当である

(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)

人口減少対策であり、行政が積極的に関わる必要がある。

II. 有効性評価

成果指標と実績

体験者数

R2実績: 121人
R3実績: 80人
R4実績: 73人

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

見直し余地がある(成果実績は十分でない)

妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)

移住希望体験者に寄り添ったボグメド型の移住体験ツアーや業務委託先「SARA」の活動によるインバウンドの実施により、移住者の増加が期待できる。

活動指標と実績

ア 移住体験ツアーの実施(個別)体験者数
R2実績: 4人
R3実績: 14人
R4実績: 38人

イ 移住体験ツアーの実施(イベント)体験者数(オンライン含む)
R2実績: 117人
R3実績: 66人
R4実績: 35人

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

他に手段がある

統廃合ができる

連携ができる

既に統廃合・連携している

統廃合・連携ができない

他に手段がない

(気になった点・出された意見等)

市商工労働関係以外にも、必要に応じて、その他の担当課や団体とも、連携を図りながら、進めていって欲しい。

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名：第2部会

対象事務事業名：移住体験事業

活動
指標と
実績

- ア 移住体験ツアーの実施
(個別) 体験者数
R 2 実績：4人
R 3 実績：14人
R 4 実績：38人
- イ 移住体験ツアーの実施
(イベント) 体験者数
(オンライン含む)
R 2 実績：117人
R 3 実績：66人
R 4 実績：35人

コスト
(かかる費用)

- 事業費
R 2 実績：2,729千円
R 3 実績：2,195千円
R 4 実績：3,934千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

- 削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

住民の協力が必要不可欠である。

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

- 削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

地域おこし協力隊を配置して、活動している。

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

- 見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

本市に移住を希望している移住体験者をわけ入たてなく、支援している。

事務事業評価 ワークシート4

班名：第2部会

対象事務事業名：移住体験事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

- | | | |
|---------|--|----------------------------------|
| I 目的妥当性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| II 有効性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| III 効率性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |
| IV 公平性 | <input checked="" type="checkbox"/> 適切 | <input type="checkbox"/> 見直し余地あり |

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

- 目的再設定 事業のやり方改善による成果向上
- 廃止・休止 費用負担の適正化
- 行政関与の見直し 受益機会の適正化
- 事業のやり方改善による事業費削減
- 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
- 事業統廃合・連携

(関連事業：)

(3) この事務事業に関する全体所感・市への提案

- ・行政が地域住民の協力を得られるように働きかけることが望まれる。
- ・観光部局との連携も視野において進めてもらいたい。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

- ・移住者の中で、Uターンがとて多い印象を受けた。

対象
(誰が、何が)

北秋田市に住所を有し、要介護3(Ⅲa以上)又は要介護4、要介護5に該当する若しくは同等の状態にあると認められる方を、自宅で介護する同一世帯の家族

意図
(どうなることで)

経済的、精神的負担が緩和される

結果...

上位目的
(どうなる)

高齢者にとっては、住み慣れた自宅で介護を受けられることによる安心を得られ、介護する家族にとっては身体的、精神的負担が緩和される一助となり、在宅で介護する方を奨励していくことで、より給付費用のかかる施設入所への移行を回避できる。

I. 目的妥当性評価

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)について、上位目的(=総合計画での方向性)や市民感覚と照し合わせると適切か?

- 見直し余地がある
(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)
- 適切である

(気になった点・出された意見等)
月額3000円という額について質問がありました。

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的(対象と意図)は行政(市)が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

- 見直し余地がある
(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的であるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)
- 妥当である
(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)
特になし

成果指標と実績

登録人数/介護度3(Ⅲa以上)、4、5認定者数のうち在宅者数
R2実績: 2. 2%
R3実績: 2. 1%
R4実績: 1. 8%

活動指標と実績

給付額
R2実績: 393千円
R3実績: 390千円
R4実績: 387千円
支給延人数
R2実績: 48人
R3実績: 49人
R4実績: 52人
登録人数
R2実績: 15人
R3実績: 15人
R4実績: 12人

II. 有効性評価

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

- 見直し余地がある(成果実績は十分でない)
- 妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)
ケアマネジャーを揃っているので、対象者はもれなく支給を受けている

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか?

- 他に手段がある
 - 統廃合ができる
 - 連携ができる
 - 既に統廃合・連携している
 - 統廃合・連携ができない
- 他に手段がない

(気になった点・出された意見等)
特になし

事務事業評価 ワークシート3 【効率性・公平性評価】

班名:第1部会

対象事業名:家族介護慰労事業

活動
指標と
実績

給付額
R2実績:393千円
R3実績:390千円
R4実績:387千円

支給延人数
R2実績:48人
R3実績:49人
R4実績:52人

登録人数
R2実績:15人
R3実績:15人
R4実績:12人

コスト
(かかる費用)

事業費
R2実績:393千円
R3実績:390千円
R4実績:387千円

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか? (経費の精査、通利な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など)

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

削減余地なし

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時雇員の活用や外部委託により正規雇員の業務時間を削減できないか?

削減余地がある 削減余地がない

(気になった点・出された意見等)

余地なし

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担は公平・公正・適当か?

見直し余地がある 公平・公正である

(気になった点・出された意見等)

現状は問題なし

事務事業評価 ワークシート4

班名:第1部会

対象事業名:家族介護慰労事業

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1~3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
II 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
III 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
IV 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

<input type="checkbox"/> 目的再設定	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善による成果向上
<input type="checkbox"/> 廃止・休止	<input type="checkbox"/> 費用負担の適正化
<input type="checkbox"/> 行政関与の見直し	<input type="checkbox"/> 受益機会の適正化
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善による事業費削減	
<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善による延べ業務時間削減	
<input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持

(関連事業:)

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

生きていく為の施設の改善なども今後指導すべきである

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

対象
(誰が、何が)

- ・内陸線通学定期補助高校生
- ・内陸線利用補助保育園 (園児・先生・保護者)

意図
(どうなることで)

内陸線の乗車人数の増加

上位目的
(どうなる)

結果...

秋田内陸線の安定的運行と存続

I. 目的妥当性評価

①対象・意図・上位目的の妥当性

この事務事業の目的 (対象と意図) について、上位目的 (=総合計画での方向性) や市民感覚と照し合わせると適切か?

- 見直し余地がある
(目的自体適切ではない、対象や意図をより限定・追加・拡充すべきである)
- 適切である

(気になった点・出された意見等)
公共交通の役目を果たす

②公共関与(行政関与)の妥当性

この事務事業の目的 (対象と意図) は行政 (市) が税金を使って果たす目的か? 民間や受益者ができる事業か?

- 見直し余地がある
(行政が税金を使って果たす目的ではない、行政が税金を使って果たす目的はあるが、民間や受益者がより関って行政関与を軽減すべきである)
- 妥当である
(行政が税金を使って果たすべき目的であり、かつ行政の関与は妥当である)

(気になった点・出された意見等)
市民の初動手段としてかせない。
北秋田市の観光促進の一翼であり、地域経済に寄与している。

成果指標と実績

定期輸送人員
R 2 実績：101,599人
R 3 実績：100,462人
R 4 実績：85,559人

定期外輸送人員
R 2 実績：78,392人
R 3 実績：76,730人
R 4 実績：98,122人

活動指標と実績

秋田内陸線運営費補助金
R 2 実績：200,000千円
R 3 実績：200,000千円
R 4 実績：200,000千円

II. 有効性評価

③成果の向上余地

あるべき水準や目標に達しているか? 現在の活動内容で成果の向上が期待できるか?

- 見直し余地がある(成果実績は十分でない)
- 妥当である(成果実績は十分な水準である)

(気になった点・出された意見等)
赤字2億円以内を達成している

④類似事業との統廃合・連携の可能性

目的を達成するには、この事務事業の他 (民間・国県を含む) に方法があるか?

- 他に手段がある
 - 統廃合ができる
 - 連携ができる
 - 既に統廃合・連携している
 - 統廃合・連携ができない
- 他に手段がない

(気になった点・出された意見等)
県、仙北市、関係団体と連携して支援している。
(多岐園⇔にわたる団体)

Ⅲ. 効率性評価

⑤事業費の削減余地

事業費を削減できないか？（経費の精査、過剰な仕様の適正化、回数削減、住民の協力、外部への委託など）

- 削減余地がある
- 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）
 コロナ以前の状況に戻すには、時間がかかるため、補助金を削減するのは、困難。

⑥人件費の削減余地

やり方の工夫（業務プロセスの改善など）や臨時職員の活用や外部委託により正規職員の業務時間を削減できないか？

- 削減余地がある
- 削減余地がない

（気になった点・出された意見等）

秋田内陸線運営費補助金
 R 2 実績：200,000千円
 R 3 実績：200,000千円
 R 4 実績：200,000千円

事業費
 R 2 実績：119,700千円
 R 3 実績：119,700千円
 R 4 実績：119,700千円

Ⅳ. 公平性評価

⑦公平性評価

対象が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担は公平・公正・適切か？

- 見直し余地がある
- 公平・公正である

（気になった点・出された意見等）
 乗り降りしにくいにかかわらず、鉄道は残してもらいたいとの思い

事務事業評価 ワークシート4

【評価結果の総括と今後の方向性(市民からの提案)】

(1) 評価結果の総括

(ワークシート1～3での評価結果を踏まえて)

I 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
II 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
III 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり
IV 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切	<input type="checkbox"/> 見直し余地あり

(2) 今後の事業の方向性(複数選択可)

- 目的再設定
 - 事業のやり方改善による成果向上
 - 廃止・休止
 - 費用負担の適正化
 - 行政関与の見直し
 - 受益機会の適正化
 - 事業のやり方改善による事業費削減
 - 事業のやり方改善による延べ業務時間削減
 - 事業統廃合・連携
- (関連事業：)

(3) この事務事業についての全体所感・市への提案

- ・乗車率の低下が顕著なため、公福員の方々の乗車を促してくれるような方策を考えて欲しい。
- ・学護会のような市民団体への補助の見直しを求め。
- ・今後、さらに定期乗車率の低下が顕著なため、イバウダの乗客や関連販売の促進を盛り上げてもらいたい。

(4) 事務事業評価に参画した感想・今後に向けての意見

- ・今後、赤字が2億円を越えることが予想されるため、その際の対策を考えていく必要がある。(関連団体からの寄付？もいいのでは？)
- ・阿仁合～鷹巣間の乗車率をあげたい。

評価年度	令和 4 年度	事務事業名	敬老事業	
評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
	見直し余地あり	見直し余地あり	適切	適切
行政評価委員会 意見・提言等の内容	<p>1. 敬老式の手法（祝い品・祝宴・式典）の見直しが必要である。</p> <p>2. 今年度、県内13市の中で敬老式を実施したのは本市のみであった。</p> <p>3. 12月に集計されると聞いているアンケートの結果を踏まえて、良い方向を検討願いたい。</p> <p>4. 実施する団体の苦勞を感じた。</p> <p>5. 事業費の高額に驚いた。また、市職員の皆様の苦勞を知った。</p> <p>6. 婦人会に頼らざるを得ない現実、一方、婦人会員のなり手の減少という状況の中で、行政として考えていかなければならない。また、婦人会の現状を踏まえると、自治会の協力なしでは敬老事業は実施困難となっており、自治会の協力を求める必要がある。</p>			
担当課	<p>アンケート調査結果、婦人会の現状（特に地域差）、県内他市の状況、参加率の傾向などを総合的に検討した結果、敬老式は式典を令和5年度より廃止し、祝品は新敬老及び白寿は廃止、米寿（88歳）に集約化を行い、郵送による贈呈に変更する方針となりました。</p>			
	<p>意見・提言等に対する担当課の回答</p>			

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

評価年度	令和4年度	事務事業名	図書館事業	
評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
	見直し余地あり	適切	適切	適切
行政評価委員会	意見・提言等の内容	<p>1. 基本理念の「命の大切さを学び文化をはぐくむ豊かなまちづくり」という視点から見れば 問題のない事業だが、「芸術・文化の継承と振興」という広い視点から見ると、読書の習慣化、本をより身近なものに感じてもらうためにも、図書館そのもののリニューアル（新しい図書館の建設又は増築）が必要ではないか。</p> <p>2. 高度化・多様化する要望に応えるためにも、図書館利用者のニーズを把握する必要があるので、アンケート調査などを実施したらどうか。</p> <p>3. 市民との距離の近い場所でもあり、図書館事業は「芸術・文化の継承と振興」の要となる 事業として力を入れてほしい。</p> <p>4. 事業内容にはほとんど異論がなかったが、施設の充実を提案することとした。</p>		
担当課	意見・提言等に対する担当課の回答	<p>利用者の声を図書館事業に反映させるため、令和4年度に市内2図書館と2公民館図書室においてアンケート調査を実施しております。</p> <p>このアンケートには、図書館施設・設備の満足度を聞く質問項目を設けておりますので、図書館のリニューアル（建設や増築）については、その結果を踏まえ検討してまいります。</p> <p>また、このアンケート結果を参考にして、より良い図書館事業を推進してまいります。</p>		

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

評価年度	令和4年度	事務事業名	北秋田市商工会経営改善普及事業	
評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
	適切	適切	適切	適切
行政評価委員会	意見・提言等の内容			
担当課	意見・提言等に対する担当課の回答			
	<p>1. 諸々の問題点（人口減少・空き店舗・後継者など）については、関係する市役所の様々な部署が連携して対応してほしい。</p> <p>2. 補助金を交付している以上、地域課題の解決を視野に入れて市と商工会は協働して活動してほしい。地域的な問題でもあるが、移動販売車の導入を検討してはどうだろうか。</p> <p>3. 以前評価を行った社協への補助金は内訳がなく金額の根拠がないということが議論になったが、本補助金については商工会が行う様々な活動の原資となっているということでした。</p>			
	<p>1. 諸々の問題点（人口減少・空き店舗・後継者）については、本市の喫緊の課題であり、いただいたご意見を心に刻んで関連部署や商工会と連携しながら取り組んでまいります。</p> <p>2. 商工会との連携を図るために不断の協議や商工会との意見交換会を開催しておりますが、地域課題の解決に向けてより連携を密にし対応してまいります。また、買い物弱者への対応としては移動販売車の導入も検討の一つと考えておりますが、まずはニーズの把握や事業の取組み方、事業者等について商工会と協議をさせていただきたいと考えております。</p> <p>3. 本補助金については、商工会が行う様々な活動の原資となっていることにご理解をいただいているところでありますが、今後も引き続き補助事業が適切に実施されるよう努めてまいります。</p>			

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

評価年度	令和4年度	事務事業名	公共下水道事業	
評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
	適切	適切	適切	見直し余地あり
行政評価委員会 意見・提言等の内容	<p>1. 下水道施設の維持管理に終わりがいいことから、もっとPRして接続率を上げることで料金収入の増加に努めてほしい。</p> <p>2. 若手職員の研修・スキルアップを図ってほしい。</p> <p>3. 下水などトイレの水洗化は、移住対策とも関連して考えてほしい。文化のバロメーターでもあり水洗化は進めていかなければならない。</p> <p>4. 「公共」「特環」「農集」「特排」について、もう少し詳しく説明した上でマネジメントシートにも書いてほしかった。専門的過ぎて分かりにくい部分があった。</p>			
担当課 意見・提言等に対する担当課の回答	<p>北秋田市の下水道事業は、「公共下水道事業」、「特定環境保全公共下水道事業」、「農業集落排水事業」、「特定地域生活排水処理事業」の4事業に区分されております。「公共下水道事業」の未普及地区の整備について、計画的に順次実施しており、令和8年度までに整備完了する予定です。</p> <p>人口減少や高齢世帯の増加により、水洗化率や経費回収率を目標値まで向上させることが課題となっておりますが、職員のスキルアップを図りつつ、課題解決の取り組みとして、供用開始に向けた市民説明会での丁寧な説明や、住宅リフォーム補助など水洗化工事に関する補助事業のPRを行うことなどで、市民目線に立った分かりやすい下水道加入への周知啓発を心掛けてまいります。</p> <p>また、現行の使用料収入のみでは、事業費の捻出が困難であることから、経費回収率等のデータを精査したうえで、適正な使用料への改定に向けて取り組みを進めてまいります。</p>			

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

評価年度	令和4年度	事務事業名	空家等実態調査事業	
評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
	適切	適切	適切	適切
行政評価委員会	意見・提言等の内容			
担当課	意見・提言等に対する担当課の回答			
	<p>1. 自治会が調査に対して情報提供をしているので、自治会へ調査結果の報告をしていただきたい。</p> <p>2. 本事業とは異なるが、自主防災組織への補助要綱の変更（2回目の資機材整備事業を可能とする）を望む意見があった。</p>			
	<p>1. 令和5年度から令和6年度にかけて、各自治会等の協力をいただきながら、市内における空家等の実態調査を行う予定としております。ご協力いただいた自治会等へは、調査結果等をお知らせいたします。</p> <p>2. 自主防災組織の設立促進及び活動支援、また地域住民の「自助・共助」の取組強化により、地域防災力の向上を図ることは重要であることから、内容を精査のうえ、検討してまいります。</p>			

行政評価委員会からの意見や提言に対する回答

評価年度	令和4年度	事務事業名	小学校再編事業	
評価結果	目的妥当性	有効性	効率性	公平性
	適切	適切	適切	適切
行政評価委員会	意見・提言等の内容			
担当課	意見・提言等に対する担当課の回答			
	<p>1. 保護者の意見をまとめた上で、地域住民へ説明をした方が、スムーズな統合が実現できると思われる。</p> <p>2. 将来に禍根を残さない再編実現にしてほしい。</p> <p>3. 教育委員会では、いろいろな意見を聞いて実現に向けて一生懸命取り組んでいる。</p> <p>4. トータルコストを評価するために、人件費を記入してほしかった。</p>			
	<p>1. これまでも保護者へのアンケートや説明会等を実施しておりますが、学校及びPTAとの協力・連携の強化、意見の集約等を図り、地域への説明を進めてまいります。</p> <p>2. 学校再編については、将来の学校のビジョンを示した「小中学校適正規模・配置再編プラン」に沿いながら、保護者・地域の意見や実状等を踏まえ進めてまいります。</p> <p>3. 学校再編については、今現在、対象の学校に通っている児童生徒の保護者のみならず、将来通学する予定の子どもたちの保護者や、地域住民等の意見を踏まえながら検討してまいります。</p> <p>4. 今後は、人件費を含めた事業費を提示してまいります。</p>			